

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>[教務課] ・少人数指導を実践するにあたり、多くの先生に時間的負担をかけている事実がある。単一クラスで実施している授業も含め、教育の費用対効果が高まるように編制を考えなければならない。</p> <p>[進学課] ・授業等での工夫や考査のあり方を工夫して、生徒の学ぶ意欲を喚起する努力を行う必要がある。教科会などの機会を利用して、指導法の工夫などについて話し合ってもらう機会を設定するなどの努力を行いたい。</p> <p>[学年] ・引き続き「なぜ成るノート」やタブレットを利用して個人状況を把握し、学習習慣の定着に向けて生徒の意欲を喚起する。学年運営や生徒理解について、学年教員全員の共通理解の深化に努める。</p>	
		[教務課] 1) 少人数指導による効果について生徒・保護者ともに76%以上の肯定意見が得られるように、工夫された展開授業を実施を目指す。(R3 生徒75.6%, 保護者75.2%) 2) 生徒の授業満足度94%以上 (R3 全体平均93.1%)	[教務課] 1) 単位制の利点を生かし、生徒の希望する選択科目を開講することができた。 ・2,3年で15講座以上展開授業を実施した。(R4 1年生:16 2年生:24 3年生:34) ・肯定意見割合 (生徒75.2%, 保護者70.0%) 2) 生徒の授業満足度は、全体平均で94.7%であった。	[教務課] (評価B) ・各教科と連携し、生徒の希望する選択科目を開講することに努めた。教職員数の都合上授業展開数に限りがあるのが現状である。少人数指導の効果を一定程度実感していると思われるが、数値目標の達成には至らなかった。教科会を年6回開催し、評価の観点など新課程についての取組に対して活発なPDCAが行われた。その成果が生徒の授業満足度の目標達成につながったものと考えられる。 ・授業交流週間の実施は、アンケートより教職員の授業における新しい気づきを生む効果があることが見られた。		[基礎・基本の定着について] ・生徒の授業満足度が94.7%というのは数字としていいと思う。 ・基礎学力の定着について、授業時にはわかったつもりになるが、後日わからなくなることがある。これは基本がわからないまま教えているので定着しないのではないかと、基礎を定着させたいなら根本的な部分が大切であり、その意味合いを教える必要がある。生徒の意見をヒアリングすると解決につながることもある。
		[進学課] 1) 学習の日についてきちんと周知し、学習時間を学年+1時間を目指す。 (R3 平均学習時間 1年生:2.06時間 2年生:2.14時間)	[進学課] 1) 1年生2.05時間、2年生2.26時間であった。	[進学課] (評価B) ・学習時間調査の結果を見ると、ホームルームにより大きな差が見られた。学年団がより団結して、学年として成果を上げられるように働きかける必要があると感じた。 ・令和7年度の入試を見据えて、1年生の一斉テストに情報を取り入れるなどして、新課程の生徒たちに意識付けを図ることができた。しかしながら、学習への意欲を喚起するためには一層の工夫が必要であると感じている。		・学ぶ量が多く、どうしても先に進まなければならないところがあると思うが、原理がわからないとトラブルシューティングすることもできない。時間的に許されるならそこまで踏まえてやるのが大事だ。
		[学年] 1) 基礎基本の定着を図り、欠点科目の減少に努める。 2) 自主学習時間の確保に結びつくよう、年間3回は取り組みの内容を確認・評価する。 3) 学年集会を各学期に2回以上実施する。	[学年] 1) 丁寧な教科指導や個別の面談で意欲を高め、その結果欠点科目数が昨年度より減少した。 2) 週末や長期休業には課題を設定して計画的に取り組むよう指導し、その状況を年間3回以上確認し、評価した。 3) 学年集会は、従来の体育館だけでなくオンラインも利用して、各学期2回以上実施した。	[進学課] (評価B) ・学習時間調査の結果を見ると、ホームルームにより大きな差が見られた。学年団がより団結して、学年として成果を上げられるように働きかける必要があると感じた。 ・令和7年度の入試を見据えて、1年生の一斉テストに情報を取り入れるなどして、新課程の生徒たちに意識付けを図ることができた。しかしながら、学習への意欲を喚起するためには一層の工夫が必要であると感じている。		・先生方は個性的で子どもに一生懸命関わってくれている。
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
		[教務課] 1) 2) 教師の授業改善につなげる授業交流週間、評価の振り返り等の教科会の実施	[教務課] 1) 授業交流週間を年間2回実施、授業参観教員数ののべ人数80人以上 (R3 のべ参加人数71人) 2) 授業改善や評価の振り返り等について協議する教科会を年間6回実施	[教務課] ・授業交流週間を6月と11月の計2回実施することができた。授業参観ののべ人数(アンケート回答数)は73名であった。 ・教科会を年6回実施し、各教科において、観点別評価の工夫と方法等について、共通理解を高めることができた。また、学校ブランドデザイン、城北生に授業で身につけさせたい力などについても討議をすることができた。		
		[進学課] 1) 平日学習時間として「学年+1時間」の定着を目指す。 2) 新課程入試を見据えた情報の提供と共有 3) 学習習慣を定着させるための適切な内容の一斉テストや定期考査を実施する。	[進学課] 1) 「学習の日」を設定し、学習時間調査を実施する。 2) Classiを活用し、生徒・保護者に入試等に関する最新の情報を随時提供する。 3) 校内で実施するテストに反映できるよう、最新の入試傾向についての情報を提供・共有する。また、大学入試や模試の問題傾向を共有し、作問の質の向上に努める。	[進学課] 1) 毎月「学習の日」を設定し、学習時間調査を実施した。今年度はClassiを活用して効率的に調査できた。 2) 進路保護者会動画をClassiを使って配信し、広く進路に関する情報を周知した。 3) 入試傾向が最も反映されやすい3年生対象の模試を実施するにあたり、職員室に問題冊子を置き問題傾向を知ってもらうとともに、一斉テストなどにも模試や入試の過去問に似た形式の出題を実施してもらった。		[学年] (評価A) ・基本的な生活習慣の確立や基礎学力の充実に向けて、学年団で協力して取り組むことができた。
		[学年] 1) 予習→授業→復習サイクルの習慣化による、学習内容の定着を図る。 2) 自らの現状を理解した上でそれぞれの課題を設定し、主体的に学習に取り組ませる。 3) 進路目標の達成に向けて、時期に応じた目標設定をさせる。	[学年] 1) タブレットを活用して学習時間を確認し、生徒一人一人に学習習慣の定着を徹底させる。 2) 「なぜ成るノート」を活用した面談により、取り組み内容を確認・評価する。 3) 学年集会を実施し、適切な時期に意欲を高め、やるべきことを理解させる。	[学年] 1) タブレットを利用して学習時間の調査や課題の確認をし、生徒の取り組み状況の把握をした。 2) 「なぜ成るノート」を活用した面談を複数回実施し、主体的な学習の習慣を促した。 3) 学年集会を適切な時期に行い、それぞれの進路目標に向けて意欲を高め、行動を促した。		

重点課題	重点目標	自己評価		学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>1) 国語 3観点での評価基準を明確にし、学力伸長との相関性を高くすることで、日々の指導から常に意識していくものにしてほしい。思考力を伸ばす実践をより一層進めていきたい。</p> <p>2) 地歴・公民 今年度からの新科目である地理総合・歴史総合の学習内容が次年度からの新科目である日本史探究・世界史探究・地理探究へよりよく繋げられるように年間指導計画の作成に努める。</p> <p>3) 数学 今年度より新しい教育課程が導入されたが、2年生からの進度や、よりよい観点での評価方法の研究を続ける必要がある。</p> <p>4) 理科 課題提出の督促を根気強く行っていきたい。また、観点別評価の基準を明確にし、授業での取り組みと評価が一体となるように取り組んでいきたい。</p> <p>5) 英語 観点別評価の基準を明確にし、生徒の学力をいかに正確に評価していくか、その方法や評価規程について十分準備をして、生徒の学力伸長に取り組んでいきたい。</p>
	1 学習指導の充実 (1) 生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 (2) 授業を重視し、基礎・基本の確実な定着と応用力の育成及び個性を生かす教育の充実を図る。	[教科] 1) 国語 ①月1回の課題提出率90%(R3 80%) ②小テストの月2回以上の実施と合格率70%以上	[教科] 1) 国語 ①課題提出率は85%であった。 ②小テストを計画通り実施し、合格率は73%であった。	1) 国語(評価B) ・点数だけでなく記述式にするなど小テストは「見える化」し、考え方の跡が残るもの、つまづきがわかるようにしたらどうか。習ったことを網羅的にすると気づかない。生徒にわからせ、先生自身も理解し工夫できるといい。 ・観点別学習状況評価については、今後も一層の検討と実践が必要である。	
	2) 地歴・公民 ①授業評価による授業満足度を85%以上。 ②Classを活用し、1学年地理総合の作図課題等を提出させる(年3回以上)。 ③予習復習プリント(提出課題)提出率90%以上。	2) 地歴・公民 ①授業満足度は地歴86%、公民77%であった。 ②ICT活用による地理総合作図実習課題は6回提出した。 ③予習復習プリント等課題提出率は96%であった。	2) 地歴・公民(評価B) ・目標値に達していない項目があるが、概ね目標を達成できた。次年度も継続したよりよいICT活用の実践を行う。	・キュレオス(Qureous)の導入について回線処理能力の問題でうまくいかなかったというところか。ネットワークの脆弱さが気になる。最初のインフラ整備なので自在に使えないと意欲があってもうまくいかないのではないかと感じる。	
	3) 数学 ①週末課題プリント提出率90%(R3 91.0%) ②小テストの実施と再テスト合格率95%(R3 73.0%)	3) 数学 ①提出率は81.5%で目標を達成できなかった。 ②計画どおり実施したが、再テスト合格率は88%であった。	3) 数学(評価B) ・目標値には到達しなかったが、再テスト合格率は昨年度を上回った。次年度に向けて、小テストの実施方法やICT教材の活用方法を検討する必要がある。	・中・高校で学んだことが将来役に立つと思うがうまく使えていないと感じる。	
	4) 理科 ①各科目で実験・観察を入れた授業を年間3回以上実施する(R3 3回以上) ②長期休業中の課題提出率85%以上	4) 理科 ①実験・観察を入れた授業は平均9.1回で目標を達成できた。 ②提出率は81.0%で、目標を達成できなかった。	4) 理科(評価B) ・課題提出率が達成できなかった。未提出者に対して督促を行ったが、何度催促しても提出しない生徒も少数人数であるが存在する。	・公式など、なぜそうなのかわからないのか、どういう意味でこれを用いるのかを教えてほしい。それが知識を深める知恵となる。根本的なところ立ち戻ることが大事だと思う。教えることの意味を説いた参考書なども補助的資料として用いてもいいのではないかと検討していただきたい。	
	5) 英語 ①家庭学習課題の提出率90%以上(R3 84%) ②語彙力・文法等の小テスト平均正答率70%以上(R3 69%)	5) 英語 ①家庭学習課題の提出率は82%であった。 ②小テストの正答率は66%であった。	5) 英語(評価B) ・授業のみならず、定期考査・一斉テストでも十分できた。 ②個に応じたプリントや小テストの実施方法等を工夫した。 ③観点別評価はある程度できた。		
	(下組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
		[教科] ○基礎・基本の徹底と定着 ○学習指導法の改善	[教科]		
	1) 国語 ・言語に関する知識・理解の深化 ・思考を深める力の育成 ・読む・書く力の向上	1) 国語 ①各単元・授業で思考を問う発問を課す ②評価のフィードバックを行う ③観点別評価を行う	1) 国語 ①授業のみならず、定期考査・一斉テストでも十分できた。 ②個に応じたプリントや小テストの実施方法等を工夫した。 ③観点別評価はある程度できた。		
	2) 地歴・公民 ・基礎基本の定着 ・思考力を深める力の育成 ・技能を習得させる活動の実施	2) 地歴・公民 ①予習復習プリント(提出課題)を実施する。 ②共通テスト対策に取り組ませ、思考力を育成する。 ③作図ソフトやデータソフトを活用して技能を習得させる。	2) 地歴・公民 ①予習復習プリントや長期休業課題を毎学期提出させた。 ②共通テスト対策として、火曜日放課後に補習を実施した。 ③地理院地図やICTソフトを活用し、作図実習を行った。		
	3) 数学 ・基本的な概念、原理・法則の体系的な理解 ・数学的な表現を用いた事象の考察の徹底	3) 数学 ①週末課題プリントの改良及び配布とフィードバック ②小テストの実施とフィードバック	3) 数学 ①計画どおり実施できた。 ②小テストでは基本事項の復習を重視し、再テストの実施方法を工夫するなどした。		
	4) 理科 ・論理的思考力、表現力の育成 ・基礎・基本の定着	4) 理科 ①実験・観察のレポートやワークシートに考察を記入させる ②長期休業中の課題を与え、未提出者には督促を行う	4) 理科 ①計画どおり実施できた。 ②未提出者には督促を行ったが、提出できない生徒もいた。		
	5) 英語 ・基礎・基本事項の定着 ・学習意欲を高めるための授業内容の精選	5) 英語 ①語彙・文法・読解等の課題を与え、事後指導まで行う ②積極的なICT教材の活用と興味を喚起する教材開発を行うとともに、学習系アプリなどを活用する。また定期的な小テストを実施し、語彙力の定着を図る。	5) 英語 ①学年ごとに計画を立て、課題や小テストが効果的になるように工夫しながら実行した。 ②教科書や副教材の内容を基に、タブレットを用いた授業や課題提出を積極的に取り入れた。		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
		<p>[進学課]</p> <p>1) 新しい教育課程の導入に伴う大学入試に関する最新の情報の提供や、学習・進路意識を喚起するための集会を各学年で年2回以上実施する。 2) 共通テスト出願率65%以上を目指す。(R3 出願率69.7%)</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 公務員説明会を生徒の希望職種ごとに各1回以上開催すると共に、校外での説明会に積極的に参加させる。 2) 2年生対象に本校主催のインターンシップを実施し、進路決定に関する意識の向上のため5名以上(R3はコロナ禍のため未実施)の参加者を目指す。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 総合的な探究の時間の生徒の満足度65%以上(R3 65.7%) 2) 理数科学科の生徒の各活動に対する満足度90%以上(R3 93.7%) 3) キャリア・パスポートの活用率50%以上(R3 7.8%)</p>	<p>[進学課]</p> <p>1) 学年集会以進路課から話をする時間を設定してもらい、生徒の学習意欲向上を図ったほか、今年度は進路学習HRの時間を設定し、大学の学部や研究について知る時間を設けた。 2) 本年度の共通テスト出願率は70%で昨年より多く、目標とする出願率を達成できた。</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 生徒の希望状況に合わせ、警察官、刑務官、消防士(各1回)、自衛官(随時複数回)の校内説明会を実施した。また校外で実施された各種説明会については、希望者各自でそれぞれの説明会に参加する方法をとった。 2) 保育関係事業所でのインターンシップ実施を計画していたが、コロナ禍により自粛した。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 総合的な探究の時間の生徒の満足度は、77.8%と目標を大きく上回り、充実した活動ができていることが窺える。 2) 理数科学科の生徒の各活動に対する満足度は、85.5%と昨年度を少し下回ったが、ほとんどの生徒が充実した活動ができていることを示している。 3) キャリア・パスポートの活用率は、これまで4回すべて実施できたクラスが57.1%、3回が19.1%であった。概ね良好に活用できている。</p>	<p>[進学課] (評価B)</p> <p>・各学年とも進路を見据えた指導を学年をあげて行っていると感じている。進路実現に向けて生徒の粘り強さは増しており、出願率は非常に高いものとなった。</p> <p>[就職課] (評価B)</p> <p>・学年集会以の就職指導や公務員説明会を行うことで、早期からの意識付けをするきっかけとなり、自主的に公務員模試を受験する生徒が増えた。 ・生徒の希望する業種への企業訪問や連携を行い、必要な求人確保することができた。 ・就職指導室の環境を整え、各種説明会、自主学習や面接練習として活用することができた。</p> <p>[キャリア形成支援課] (評価B)</p> <p>・総合的な探究(以前は学習)の時間について探究活動を中心に据えた現在の形になって、普通科のP-timeで7年目、理数科学科のSP-timeで5年目を迎える。毎年、課内で会議を重ね、生徒のよりよい探究活動を目指して改善をしている。生徒は学校生活の限られた時間の中で、勉強や部活動の活動時間とのバランスをとりながら、探究活動に取り組む姿勢が定着してきた。</p>	<p>・進学率は逃げたらだめだ。これをご自分で持って行く、このことよってここはこうなっていくというようにやりたいことを語らなければならない。攻める姿勢が必要だ。 ・地元を支える人材を育ててほしい。今後、進学する生徒が徳島で軸になる。徳島のためにと思う子どもを育ててほしい。 ・目標をつくることはいいことだ。大学は通過点でしかないので高校でどんな勉強をするのか、入学後すぐに将来像を描いてほしい。 ・小中学生は広く可能性があり、学年が進むにつれ絞り込みが行われる。最初は大まかなものでもいいので人生設計をつくるよう先生方に誘導していただきたい。そうすれば生徒はキャリアを明確にできる。 ・Classiについて有効に使えているのなら検討してもよい。</p>	<p>[進学課]</p> <p>・自己の適性や志望について知り、できるだけ早期に目標を持つように、引き続き進路HRを行ったり、既製の適性検査などの導入を行う。 ・進路講演会や小論文講演会を開催し、生徒の視野を広げられるような機会を設定する。 ・目標とする進路を達成するために必要な道のりを具体的に提示できるような方策を見つける。</p> <p>[就職課]</p> <p>・コロナ禍の影響に伴う就職指導の時間不足や困難が予測される状況ではあるが、できる限り早期に生徒の特性や希望状況を把握し、必要な求人・情報を確保する。 ・保護者に対してでもできる限り多くの情報を提供し、連携を図りながら希望職種・事業所等のミスマッチをなくす。 ・学年集会以や進路保護者会を通して、就職に対する早期からの意識付けを図る。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>・総合的な探究の時間について、今年度改善したが、来年度、再来年度にその評価ができる。よりよい探究活動を目指しながら、生徒と教員の負担感を軽減し、かつ充実した内容となるよう常に周囲の意見を聞き、評価していく。 ・理数科学科の県外研修は週時間外の総合的な探究の時間ではなく、理数科行事という位置づけになったが、今後とも継続して実施していきたい。コロナ禍が続く中、保護者の金銭的負担と研修内容とのバランスをとり、生徒の科学的資質・能力の醸成により効果をもたらす内容を研究していくので、ご理解とご協力をお願いしたい。 ・キャリア・パスポートについては、その学校生活での位置づけと効用について生徒への丁寧な説明が必要であるとともに、担任教員にとっても生徒の振り返りの機会として実施できるよう学校行事の中に取り込み、定着を図る。</p>
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
			<p>[進学課]</p> <p>1) 進路選択に関する生徒および保護者への情報提供を充実させる。 2) 全職員が一丸となった組織的かつ手厚い進路指導を継続する。</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 就職活動の情報源として、各種説明会や職場見学に加えてインターネットの活用を図る。 2) 生徒のキャリア教育推進のための校外体験活動を推進する。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 2) 将来への展望を持たせることにより、目標設定や社会に参画する意識を高め、社会的・職業的な自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育成する。</p>	<p>[進学課]</p> <p>1) 本年度は3年ぶりに3年生対象の進路保護者会を対面で実施することができた。1、2年生については感染状況に配慮して、Classiでの配信にとどまった。 2) 適切なコンテンツを作ったり精選する十分な時間がなく、情報発信は最小にとどまった。 3) 学年や教科の枠を超えて、多くの教員が受験指導に協力してくれた。</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 警察官・刑務官・消防士は各1回、自衛官は年間を通して複数回の説明会を希望生徒を対象に実施した。 2) ハローワークの高校向けインターネット求人情報を最大限に利用する。 3) 進学先決定のファクターとして、保育関係事業所を中心に協力依頼をする予定であったが、コロナ禍により自粛した。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 総合的な探究の時間 ① フィールドワークなど生徒の探究活動への主体的な取り組みを推進する。 ② 生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、年間2回発表会を開催する。 2) キャリア・パスポートを作成・配布し、キャリアパスポートの日を設けて、年間5回生徒に記入・整理させる。</p>	<p>[進学課]</p> <p>1) 本年度は3年ぶりに3年生対象の進路保護者会を対面で実施することができた。1、2年生については感染状況に配慮して、Classiでの配信にとどまった。 2) 適切なコンテンツを作ったり精選する十分な時間がなく、情報発信は最小にとどまった。 3) 学年や教科の枠を超えて、多くの教員が受験指導に協力してくれた。</p> <p>[就職課]</p> <p>1) 警察官・刑務官・消防士は各1回、自衛官は年間を通して複数回の説明会を希望生徒を対象に実施した。 2) ハローワークの高校向けインターネット求人情報を活用し、県外就職希望者に情報提供することができた。 3) 進学先決定のファクターとして、保育関係事業所を中心に協力依頼をする予定であったが、コロナ禍により自粛した。</p> <p>[キャリア形成支援課]</p> <p>1) 総合的な探究の時間 ① 2年生では、多くのグループがフィールドワークや小中学校への出前授業等、生徒の探究活動や主体的な取り組みを活動に行うことができた。 ② 普通科では1・2年とも2回、理数科学科では1年は1回、2年は2回生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、発表会を開催した。生徒が取り組む分野の専門の外部講師を招聘することにより、生徒は的確な助言・指導を得られた。 2) 「キャリアパスポートの日」には担当者が職員朝会で担任に呼びかけなど、生徒に記入と整理を促し、概ね活用できているが、担任の指導によるところが大きい。</p>	<p>・Classiの導入だが、学校単位で導入でき、有効に使えるものであれば検討してもいいのではないかと。ただネットワークの脆弱さが気になる。最初のインフラ整備なので自在に使えないと意欲があってもうまくいかない。 ・P-Time(総合的な探究の時間)やSP-Timeの活用については早期に取り組んでいるのでよい。探究心のある生徒を大学でも求めている。</p>

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
規範意識の一層の向上とルールを守りモラルやマナーを大切に する心、いじめをゆるさない心の育成	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>[生徒指導課]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルメットの着用指導は難しい。事故に遭った時の被害が大きいのは自転車なので一人でも多くかぶってもらえる環境になればありがたい。 ・ヘルメットについては努力目標になり、他県では全員に買い与えている。2・3年生がかぶっていないと1年生はかぶらない。自転車を買う時点でヘルメットを売ってくれたらと思う。小学校、中学校と一緒にやればよいのではないか。かぶる理由を丁寧に説明し、面倒臭くても加害者にも被害者にもならないよう子ども、保護者ともに指導する。全員と一緒にやるのが大事で安全教育の推進は保護者も巻き込んでやればよいと思う。 ・努力義務なのでどうしなさいとは言えないが、かぶってきた人にインセンティブを与えるのはいいのではないか。 ・小学校ではかぶっていない児童への指導ができていない。自分の命を大切にするという意味で指導すればよいと思う。 ・立哨している際に挨拶をしてくれる生徒が増えたように思う。繰り返し行うと生徒側から挨拶をしてくれるようになった。 ・生徒数が減少しているのに事故件数が増えている。時間に余裕を持って登校すれば減らせるのではないか。 ・遅刻については生徒会が指導するなど活動したらどうか。生徒会に遅刻数を知らせるなど、活動のきっかけを与えるとよいのではないか。努力目標を作ろうと自主的にやってくるのは一石二鳥になる。プランニングし、生徒自ら運営していくことは将来に役立つ。
		[生徒指導課]	[生徒指導課]	[生徒指導課] (評価B)	
		<p>1)モラルや社会的マナーの指導の強化について、生徒・保護者の肯定回答を82%以上とする。 (R3 生徒80% 保護者80%)</p> <p>2)年間総遅刻数を前年に比べ10%削減する。 (R3 全学年総数1322名 1・2学期)</p> <p>3)軽微なものも含め、登下校時の交通事故件数を前年に比べ10%削減する。 (R3 交通事故件数 24件 1・2学期)</p> <p>4)いじめを許さない指導。いじめアンケートを年3回実施する。</p>	<p>1)身近な事案を取り入れながら、学校全体で指導に取り組み、意識の変革と向上に努めた。生徒・保護者の肯定回答は両者共に80%を上回ったが、保護者の肯定回答は目標に1%届かなかった。 (生徒83%, 保護者81%)</p> <p>2)1・2学期の遅刻総数は1117名であり、昨年より15%削減された。</p> <p>3)朝夕の交通指導やマナーアップでの呼びかけを行ったが、事故報告数は昨年より微増している。 (1月10日現在報告 28件 昨年同時期24件)</p> <p>4)いじめ調査は7月・1月・3月(予定)に実施し、結果を全教職員で共有した。</p>	<p>・モラルや社会的マナーの指導を通じて、社会規範意識の向上に努めるという点ではA評価を得ているが、基本的な生活習慣の部分で遅刻に対する意識改善が図れず、目標は達成したが、まだまだ総数が多いのが現状である。</p> <p>・交通事故については、余裕のない運転や安全確認が不十分であった等を理由とするものが多かった。</p> <p>・いじめ調査の結果を、いじめに繋がる恐れのある言動等の早期把握と対応に繋げることができた。表面化していないだけの事案があるかもしれないので、小さな変化に注意して対応していく必要がある。</p>	
		3 生徒指導の充実 (1)基本的な生活習慣の確立を図り、節度と品位のある礼儀正しい生活態度を育成する。 (2)生徒の生活状況に応じた指導や支援を行う。			
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
	[生徒指導課]	[生徒指導課]	[生徒指導課]		
	<p>1)道徳的・社会的マナーの指導と情報モラルの育成 ①頭髪服装指導の強化 ②情報機器の安全な使用方法と個人情報管理の徹底</p> <p>2)安全教育の徹底</p> <p>3)いじめ調査アンケートの実施と活用</p>	<p>1)日常的に行うこととし、学校行事や学年集会では指導を徹底する。 ①頭髪服装検査(年間3回必須、全体行事前) ②ネット被害の現状等講演会の実施</p> <p>2)立哨指導の継続と安全に対する意識の変容に努める。 ①交通安全教室の開催(年1回全学年) ②各学期ごとに一斉指導を実施 ③クラス毎に年1回の交通安全ホームルーム活動を実施 ④学年集会での注意喚起 ⑤毎月20日マナーアップ活動の実施</p> <p>3)7月・12月・3月にいじめアンケートを実施し、現状把握すると共に担任面談等に活用する。</p>	<p>1)身近な事案に対しても、教職員の共通理解を図った上で、迅速に生徒指導を行った。学年毎の集会やリモートを通して注意喚起を行った。 ①頭髪服装検査を各学期の始業式後に実施し、改善に努めた。(1・2・3学期) ②1年生対象に、5月に講演会を開催した。</p> <p>2)毎朝の立哨を継続して行い、安全登校とマナーの呼びかけを行った。 ①安全教室は実施できなかった。 ②生徒指導課員で実施した。 ③クラス毎に交通安全に関するテーマを決めて、ホームルーム活動を実施した。 ④長期休業前の集会で、生活に関する注意喚起を行った。 ⑤各学年の生活委員の活動として、挨拶運動・駐輪場整備や、交通マナーの呼びかけを行った。</p> <p>3)7月・1月の調査では、問題となる事案は見られなかった。また、聞き取り調査においても問題はなかった。</p>		

重点課題	重点目標	自己評価			学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画		評価			学校運営協議会委員の意見
		評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見			
豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権教育活動の充実	(全校レベル)	<p>[人権教育課]</p> <p>1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で肯定回答が77%以上にする。(R3 76.7%)</p> <p>2)「人権教育関連行事」に対する生徒の評価で肯定回答が72%以上にする。(R3 71.4%)</p> <p>3)各教科における人権学習・人権教育を必要に応じてICTなどを活用し、計画的に実施する。(R3 おおむね良好)</p> <p>4)生徒対象の人権教育講演会を年2回以上実施し、満足度を72%以上とする。(R3 71.4%)</p> <p>5)全体の人権教育職員研修会を年間1回以上実施する。(R3 12月に実施)</p>	<p>[人権教育課]</p> <p>1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で肯定回答は77%以上であった。(R4 80.3%)</p> <p>2)「人権教育関連行事」に対する生徒の評価で肯定回答は72%以上であった。(R4 75.9%)</p> <p>3)各教科における人権学習・人権教育を必要に応じてICTなどを活用し、計画的に実施した。(R4 おおむね良好)</p> <p>4)生徒対象の人権教育講演会を年2回以上実施し、満足度は72%以上であった。(R4 75.9%)</p> <p>5)全体の人権教育職員研修会を年間1回以上実施する。(R4 12月に実施)</p>	<p>[人権教育課] (評価A)</p> <p>・人権教育ホームルーム活動では、1年次に「差別とは何か」への気づきとして「青い目・茶色い目」を視聴し、続けて「ハンセン病」「多様な性のあり方」「アイヌについて」など、様々な問題に積極的に取り組んだ。2年次では、「部落の歴史」「災害と人権」「外国人の人権」を、3年次では「就職差別」「結婚差別」など、身近な差別の実態について積極的に取り組み、学び、考えることができた。</p> <p>・各教科において、生徒の現状に合わせたテーマで人権学習・人権教育に取り組んだ。今後一層研修し、準備して内容を充実させたい。</p>	特になし	<p>[人権教育課]</p> <p>・人権学習は日常生活の中にある。人権教育課としてはホームルーム活動において生徒の実態に合わせたテーマを設定し、教師も生徒ともに取り組み、学び、「互いを尊重しあい、誰でも居場所のある学校づくり」を目指す。また、生徒が主体的に活動できる場(意見発表会など)を提供できるよう考えたい。</p> <p>・人権集会や人権展示について、内容を精選したい。</p>	
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況				
	<p>[人権教育課]</p> <p>1)ホームルーム活動の充実</p> <p>2)人権集会・人権週間に向けての取り組みの充実</p>	<p>[人権教育課]</p> <p>1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて資料を集めて採択し、ICTを活用するなど展開を工夫する。</p> <p>2)人権集会・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒による人権問題をテーマとした展示物を作成し、啓発に努める。</p> <p>3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。</p> <p>4)人権教育に関する講演会を5月と11月に実施する。</p> <p>5)職員対象の人権教育研修会を8月に実施する。</p>	<p>[人権教育課]</p> <p>1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて資料を集め、採択し、またICTを活用するなど展開を工夫した。</p> <p>2)11月の人権集会・人権月間で、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした「様々な人権問題」をテーマとする展示物を作成し、啓発に努めた。</p> <p>3)各教科において年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施した。</p> <p>4)人権教育に関する講演会を5月と11月に実施した。Zoom配信となったが、5月は「あなたのミッションを見つけよう」と題し、NPO法人クレール代表の喜多條雅子さんを、11月は「もう一度考えてみませんか。インターネットのこと」と題し、中村尚生さんを招いて講演を行った。</p> <p>5)「問題の所在はどこか LGBTQの存在が問いかけられるもの」と題し、土肥いつきさんを招いて職員対象の人権教育研修会を12月に実施した。</p>				

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見			
部活動のさらなる活性化を図るとともに、生徒会や各種委員会の諸活動を充実する。	(全校レベル)	<p>評価指標</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1) 部活動導入率を向上させ、3年間の継続活動を奨励する。生徒の自主的活動を促し、部活動を通して集団の一員として必要な力を身につけ、部活動教育貢献度を80%以上を目指す。(R3 生徒80.5%, 保護者79.2%)</p> <p>2) 学校行事(球技大会・学校祭・予餞会など)を充実させ、生徒主体で進め活性化を図る。生徒評価で肯定回答を90%以上とする。(R3 生徒84%)</p> <p>生徒会活動・各種委員会の活性化を図る。生徒が主体的に取り組み、各委員会での協議を積極的に行いながら、生徒自身がやりがいのある活動にしていく。生徒評価で肯定回答を70%以上とする。(R3 生徒66%)</p> <p>5 特別活動の充実 (1)部活動を充実・活性化させ、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育てる。 (2)生徒の主体的運営を基本として、学校行事、生徒会活動の充実を図る。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動導入率は全体で85%で昨年より、わずかに減少している。3年生の部活動導入率が減少し、3年間継続して活動することができていない状況である。しかし、部活動を肯定的に捉え、自主的・主体的な活動ができていると思われる。</p> <p>2)学校行事に主体的に取り組み、活性化を図ることができた。しかし、生徒評価で肯定回答が88%で90%以上を下回った。生徒会活動・各種委員会が積極的に活動を行い、活性化が図れた。特に生徒会活動に対する肯定回答が77%を超えた。</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[特別活動課] (評価B)</p> <p>・部活動・生徒会活動・各種委員会などにおいて、主体的な活動が増えたように思う。自主的に新しいことに取り組み、自分たちで学校をより良くしていこうという雰囲気が芽生えてきた。より多くの生徒が様々な活動に参加できるよう各種行事などの充実を図りたい。</p>	<p>学校運営協議会委員の意見</p> <p>・入賞者が多く喜ばしい。体育会系だけでなく、文化系も活躍している。もっと奨励して活躍してくれるとうれしい。</p> <p>・部活動を続けるというのには有利になる。また、部を先導してきた生徒はリーダーシップを身につけている。</p> <p>・校外での活動を評価してやるというのもいい。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>・部活動においては、生徒にとって魅力ある部活動の充実を図り、3年間継続して活動ができるよう取り組みたい。学校教育において部活動の必要性を認識させ、学習と部活動の両立ができる環境を整える。</p> <p>・生徒会を中心に学校行事の充実を図り、生徒・学校全体で生徒主体の活発な活動ができるような環境を整える。</p>	
	(下位組織レベル)	<p>活動計画</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動連絡協議会を開催し、活気があり、魅力ある部活動を目指す。</p> <p>2)生徒会活動・各種委員会の活性化。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動連絡協議会を各学期に開催し、部活動の活性化を図る。</p> <p>2)年2回の各種委員会を活発に行い、各委員会の目標・活動内容を明確にし、自主的活動を進める。生徒会活動の充実を図るため、生徒会室を有効に活用し協議機会を増やし活性化を図る。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1)本年度も部活動連絡協議会を開催することができなかったが、顧問の指導により活発な活動を行うことができた。</p> <p>2)年2回の各種委員会を開催し、各委員会で話し合いながら活動を決定し、進めることができた。生徒会においては主体的な活動が増え、学校行事においても様々なアイデアを出しながら活発に活動することができた。</p>			
			<p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動連絡協議会を開催し、活気があり、魅力ある部活動を目指す。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1)部活動連絡協議会を各学期に開催し、部活動の活性化を図る。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1)本年度も部活動連絡協議会を開催することができなかったが、顧問の指導により活発な活動を行うことができた。</p>		
			<p>[特別活動課]</p> <p>2)生徒会活動・各種委員会の活性化。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>2)年2回の各種委員会を開催し、各委員会で話し合いながら活動を決定し、進めることができた。生徒会においては主体的な活動が増え、学校行事においても様々なアイデアを出しながら活発に活動することができた。</p>			

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	(全校レベル)	<p>[環境防災課]</p> <p>1) 清掃活動の取り組みについて肯定解答80%以上を目指す。(R3 79.5%)</p> <p>2) 年間に防災避難訓練を2回、机下避難訓練を2回実施する。防災クラブの活動を進める。</p> <p>3) ゴミの分別・資源保護の取り組みについて肯定回答82%以上を目指す。(R3 80.0%)</p>	<p>[環境防災課]</p> <p>1) 教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。(肯定回答 82.0%)</p> <p>2) 防災避難訓練を5月と9月に実施した。9月の避難訓練は天候が悪く、グラウンドへの避難ができない上に、コロナ禍で体育館への避難も行えなかったが、校長の講話や避難経路の確認などを十分行うことができた。</p> <p>3) 学校内外の清掃活動・ゴミの分別・資源保護に積極的に取り組めた。(肯定回答81.9%)</p>	<p>[環境防災課]</p> <p>(評価B)</p> <p>・学校の環境美化や資源保護等の取り組みについて、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的に取り組み、節電・節水、ゴミの分別、文化祭でのゴミ箱の設置や管理等を協力的にやり遂げて校内環境が整った。</p> <p>・消防庁、気象庁、徳島県などが主催した危機管理訓練に職員・生徒が参加した。定期的な訓練により基本事項の確認ができ、緊急事態に応じた避難経路の確認もできた。また災害に備えての心構えや非常持ち出し袋等の確認もできた。</p>	<p>・階段で転倒し、けがをする事故が10件あったとのことだが、階段にゴムを貼るなどしてもらいたい。</p> <p>・悪臭問題とともに校内の環境が課題ならば考えていく必要がある。階段の幅が子どもに合っていないこともあり、簡単な問題ではない。</p> <p>・防災について公民館やお年寄りなどの視点があっても面白い。加茂地区は防災についている取り組みがある。この地区の高校生として何ができるのか考えてほしい。主導的にやっていく環境ができれば生徒の刺激になるのでそのような枠組みを作るとよいのではないかと。高校生が責任感をもてるようになり、自覚も備わる。また、何かあったときには即座に対応もできると思う。</p> <p>・地域の行事に参加させてもらおうと引き出しを多く持っている大人の世界が見える。頑張っている生徒を表彰するというのはどうか。</p>	<p>[環境防災課]</p> <p>・環境防災委員によるクラス及び全校集会での直接的な呼びかけを徹底し、生徒が協力的、主体的に行動できる力を身につけさせる。</p> <p>啓発事項</p> <p>環境委員</p> <p>①校内及び周辺の美化</p> <p>②新学校版環境ISOに関する活動の推進</p> <p>防災委員</p> <p>①自然災害への対応</p> <p>特別警報、風雪災害など</p> <p>②東南海地震への対応</p> <p>初期避難、防災避難訓練</p>
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[環境防災課]	[環境防災課]	[環境防災課]			
	<p>1) 環境委員を中心にさまざまな活動を通して環境問題についての意識啓発をする。</p> <p>2) 生徒会と環境委員を中心として啓発を推進する。</p> <p>3) 防災委員会の活動を通して、知識や実践力を身につける。</p>	<p>1) 生徒・職員で毎日清掃作業を行う。</p> <p>2) ゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動を推進する。</p> <p>3) 防災研修会への参加や防災に関する学校行事を行う。防災クラブ活動を進め、防災意識の啓発も進める。</p>	<p>1) 毎日授業後、生徒・職員が校内の清掃を行い、また有志の生徒が毎朝校門前の清掃作業を行った。</p> <p>2) 教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。新学校版環境ISOに掲げるゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動ではよりよい効果が出せた。</p> <p>3) 防災委員会を中心に災害避難訓練を実施した。文化祭では、防災に関するポスターを展示し、防災意識の啓発に努めた。</p>			

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
運営組織の活性化と教職員研修の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	
		[情報教育課] 1)情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修を、随時実施する。	[情報教育課] 1)年度当初及び機会をとらえて情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修を実施したが、研修回数は少なかった。	[情報教育課] (評価B) ・一部計画通り実施できた。	[働き方改革について] ・有給消化率[は指標に入らないのか。企業では有給をとる日を提出してもらったが高校では難しいのか。管理職から積極的にとってもらわないと取りづらいのではないか。 ・教育実習に行く教員に足りない人が増えている。やりがいだけでは無理なのではないか。休みが取れる環境を作らないといけない。
		[コンプライアンス委員会] 1) 日常的的確な機会を捉えて全教職員に啓発や研修を年間15回以上、オンラインも視野に入れ外部講師を招聘しての研修を1回は行う。 2) 教職員間の報・連・相を円滑にし、教員1人が問題や悩みを抱え込まないようするとともに危機管理意識を高める。 3) 業務内容の精選・改善を推進し、教職員の勤務時間外の在校時間の縮減を図る。	[コンプライアンス委員会] 1) 職員朝礼や職員会議などを利用し、平均月2回の研修や啓発を行った。また、外部講師を招いての全体研修も行った。 2) 年度当初に危機管理体制組織を構築し周知をした。また、教職員一人が問題を抱え込まないよう報告・連絡・相談・体制の充実に努めた。 3) 一般的な業務内容の精選及び改善が不十分であった。	[コンプライアンス委員会] (評価B) ・コンプライアンス関係は、予定通り実施することができた。しかし、教職員の勤務時間外の十分な在校時間の縮減ができなかった。	・働き方改革として部活動の地域移行は高校にはないので矛盾を感じる。地域に助けてもらうのはよいと思うが、平日に来てくれる人はいない。
	7 学校の運営体制の充実 (1) 教職員一人ひとりが学校経営の当事者意識を持ち、課題解決のために組織的に取り組む。 (2) 風通しの良い職場環境づくりに努め、コンプライアンスの推進と危機管理体制の徹底を図る。	[保健厚生課] 1) 教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施する。 2) 教職員対象の健康相談会を2学期に実施する。	[保健厚生課] 1) 教職員対象の救急救命講習会を2学期に実施した。 2) 教職員対象の健康相談会を2学期に実施した。	[保健厚生課] (評価A) ・教職員対象の救急救命講習会や健康相談会を計画通りに実施することができた。	[保健厚生課] ・コロナ禍で実施が難しい時期もあったが、救急救命講習会や健康相談会を年度内に必ず行えるように計画をしていきたい。
		[特別支援教育課] 1) 教職員対象の特別支援教育に対する研修を1回以上実施する。 2) 学校生活において支援の必要な生徒について校内で共通理解を図る。	[特別支援教育課] 1) 2学期に特別支援教育研修を実施した。学校教育相談の現場から支援について理解を深めた。 2) 教科担任会、特別支援教育委員会などを開催し、共通理解を図り、その後の指導に生かした。	[特別支援教育課] (評価A) ・学校教育相談の現場から支援のあり方等、特別支援教育について研修を実施できた。コンサルテーションにおいて臨床心理士と共通理解を深め、生徒を支援することができた。	[特別支援教育課] ・支援を必要としている生徒に対し継続してスクールカウンセラーを活用しながら支援する。また、共通理解を図るために臨床心理士とのコンサルテーションを実施し、生徒個々に応じた丁寧な支援を行う。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
		[情報教育課] 1) 教職員研修の充実 2) GIGAスクール構想の推進	[情報教育課] 1) ICTを用いて全教職員が授業を実施するための研修を計画し実践する。 2) Classi及びMetaMoJi ClassRoomの使用法を定期的に紹介し、授業と学年単位・HR単位の情報発信などに活用する。	[情報教育課] 1) 電子黒板を用いての授業は広く浸透している。 2) Classiについては学年単位・HR単位の情報発信などに活用できなかった。MetaMoJi ClassRoomの使用法については十分な紹介ができなかった。	
		[コンプライアンス委員会] 1) 教職員研修の充実 2) 円滑なコミュニケーションの促進と風通しの良い職場環境づくり 3) ワークライフバランスの推進とメンタルヘルスの保持増進	[コンプライアンス委員会] 1) 年間2回以上の推進期間及び随時適切な機会を設けて、バランスのとれた啓発・研修を行う。 2) 危機管理に関する具体的な事例に基づく研修を実施する。 3) 業務内容の見直しやICT活用による作業の効率化等を行い、教職員の業務負担を軽減する。	[コンプライアンス委員会] 1) 夏と冬の2回のコンプライアンス推進週間でe-ラーニングを実施し、適宜20回以上の研修と啓発を行った。 2) 機に応じて具体的な事例を提示し、危機管理意識の啓発を図った。 3) ICT機器を活用した業務改善を推進し、業務負担の一翼を担った。	
		[保健厚生課] 1) 教職員対象の救急救命講習の充実 2) 教職員対象の健康相談会の実施	[保健厚生課] 1) 教職員対象の救急救命講習会を1学期に実施する。 2) 教職員対象の健康相談会を2学期に実施する。	[保健厚生課] 1) 教職員対象の救急救命講習会を2学期に実施した。 2) 教職員対象の健康相談会を2学期に実施した。	
		[特別支援教育課] 1) 特別支援を必要とする生徒の特性に対する対応を考えケアに努める。	[特別支援教育課] 1) 教職員対象の特別支援教育について理解を深める研修会を実施する。 2) 特別支援の対象となる生徒について校内で理解を深めるケース会議・教科会を実施する。 3) 必要のある生徒にはスクールカウンセリングの制度を活用し、支援していく。	[特別支援教育課] 1) 2学期に特別支援教育について研修会を実施した。 2) 共通理解を図るため適宜ケース会議・教科会を開催し、支援のあり方を話し合った。 3) スクールカウンセリングを希望する生徒が有効に活用し、コンサルテーションにおいて支援の方法を話し合った。	

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
学校外との交流・連携やHPによる広報活動のさらなる活性化とボランティア活動を支援する校内組織づくりの推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
		[学校評価委員会] 1)保護者アンケートの回収率83%以上をめざす。(R3 81.2%) 2)学校運営協議会を年3回開催する。	[学校評価委員会] 1)保護者アンケートの回収は663名、回収率79.5%で目標値には到達できなかった。 2)学校運営協議会は2回実施した。3月に3回目を予定している。	[学校評価委員会] (評価B) ・学校行事と重なり実施期間が十分でなかったため期限を延長したが、達成することはできなかった。学校運営協議会は予定通り実施し、貴重な意見をいただいた。	・ホームページについて小・中学校では大変なことになっている。システムが変わり使いにくいものになるようだ。	
		[情報教育課] 1)ホームページ更新を270回以上実施する。Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信を月1回以上行う。	[情報教育課] 1)ホームページ更新回数は不十分であった。Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信は定期的に行うことができた。	[情報教育課] (評価B) ・ホームページでは校外を対象に広報活動を行い、さくらメール及びClassiで生徒や保護者と情報交換ができた。	・小中学校のホームページはありがたかったが、高校になると情報が少ないように思う。	
		[国際交流課] 1)ドイツ姉妹校とのオンライン交流を学期ごとに一回は行う。 2)県内における国際交流の活動を周知し、積極的な参加を呼びかける。 3)本校ALT(外国語指導助手)との交流を通して、県内におけるスピーチコンテストへの積極的な参加を呼びかける。	[国際交流課] 1)姉妹校交流が休みの年であったため、交流はなかった。 2)感染症拡大予防を行いながら、四国大学主催の英語セミナーに1年生1名、3年生2名の生徒が参加した。 3)第76回徳島県高等学校英語弁論大会に2年生2名の生徒が出席し、うち1名が佳良賞を受賞した。	[国際交流課] (評価B) ・感染症拡大防止が継続されるなか、活動の場はやや減ったものの、県内で行われた国際交流や活動の場に参加する生徒が少しずつ増えてきた。	・広報が必要だ。どうPRしていくか、分掌として考えていけばよい。	
		[特別活動課] 1)様々なボランティア活動の積極的な参加を呼びかける。	[特別活動課] 1)実施されたボランティア活動に多くの生徒が積極的に参加することができた。	[特別活動課] (評価A) ・案内したボランティア活動に多くの生徒が参加し、積極的に活動することができた。	・ホームページを活用してアピールすると人も集まると思う。	
		[総務課] 1)PTA活動を活性化させるために、オンラインなどを併用し保護者が参加しやすい状況をつくる。 2)業務を円滑に遂行する。	[総務課] 1)新型コロナウイルス感染拡大防止のため、広い小体育館を利用したり、Zoomで研修会に参加できるようにして実施した。 2)実施できた行事については円滑に業務を遂行した。	[総務課] (評価B) ・中止になったPTA活動も多いが、動画配信にしたり、会場を広く十分な間隔をとるなど感染対策をして実施できた活動も増えてきた。	[情報教育課] ・必要な情報をすばやく確実に伝えられるよう、ホームページの更新やClassiの積極的な活用の促進に努める。	
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
		[学校評価委員会] 1)学校評価を充実させ、次年度の更なる改善に役立てる。 2)学校運営協議会との協力体制	[学校評価委員会] 1)職員・生徒・保護者アンケート及び学校運営協議会を実施する。 2)学校運営協議会を各学期に1回開催する。	[学校評価委員会] 1)職員・生徒・保護者アンケートを予定通り11月に実施した。 2)学校運営協議会は7月・11月・3月に実施した。(3回目は3月中旬を予定している)		[学校評価委員会] ・コロナ禍の影響もあり学校評価アンケートの回収率が一昨年より減少している。教員と生徒・保護者の捉え方の違いなどを丁寧に分析し、学校運営協議会の意見も参考にして改善に努める。また学校評価アンケートは継続して取り組む。
		[情報教育課] 1)ホームページなどによる情報発信を活性化する。	[情報教育課] 1)ホームページ更新とともに、Classiなどを用いた学年・HR単位の情報発信を促し、学年主任やHR担任の支援を行う。	[情報教育課] 1)ホームページ更新にむらがあった。学年・HR単位の情報発信は必要に応じて行っていた。		[情報教育課] ・今後の県内における国際交流の研修会などの案内に努め、交流活動に積極的に参加する生徒の数を増やす。また、ドイツとの姉妹校交流については、オンライン形式に加え、受け入れ等の交流も行いながら、内容をさらに充実させる。
		[国際交流課] 1)ドイツ姉妹校交流のオンラインによる推進 2)徳島県内におけるスピーチコンテストへの参加の促進	[国際交流課] 1)全校生徒にドイツ姉妹校交流を紹介し、できるだけ多くの生徒が積極的に参加するよう呼びかける。 2)県内におけるスピーチコンテストについて、全校生徒、教職員に周知し、積極的な参加を呼びかける。	[国際交流課] 1)ESS同好会の生徒を中心に、オンラインでの交流や文通などを一回ずつ行った。 2)県内のスピーチコンテストにおいて、2年生の生徒2名が参加した。		[国際交流課] ・参加できるボランティアも増えることと思われる。生徒への周知を行い、多くの生徒が参加できる環境を整える。
	[特別活動課] 1)ボランティア活動への積極的な参加の奨励。	[特別活動課] 1)ボランティア活動案内の周知徹底を行い、多くの生徒の積極的な参加を促す。	[特別活動課] 1)案内があったボランティア活動を生徒に周知し、多くの生徒が参加することができた。		[特別活動課] ・今後も新型コロナウイルス感染症による影響が続くことが予想されるが、できるだけ活動の幅を広げていきたい。PTA活動の行事の内容や実施方法について新たな方法も引き続き模索する。	
	[総務課] 1)PTA活動の円滑な運営と充実 2)学校行事や式典時における外部との連絡調整	[総務課] 1)PTA活動における各種連絡調整や新たな研修を企画する。 2)城北祭で保護者が参加しやすい運営方法を提案する。創立80周年記念式典を円滑に執り行う。	[総務課] 1)5月には3年ぶりにPTA総会を体育館にて実施できた。5月・11月にいきいきセミナーをオンラインで、12月に3学年部会を開催した。 2)城北祭は非公開としたため、保護者の参加はなかった。4月29日に無事創立80周年記念式典を挙行することができた。		[総務課] ・今後も新型コロナウイルス感染症による影響が続くことが予想されるが、できるだけ活動の幅を広げていきたい。PTA活動の行事の内容や実施方法について新たな方法も引き続き模索する。	